



管理本部 執行役員  
財務企画部 管掌  
梅田 馨

### 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて

当社は、持続可能な成長基盤の構築に向けて、成長投資や経営基盤強化等に資本を積極的に配分するとともに、財務の健全性を維持しながら、株主還元の充実を図ってまいります。2025年5月には、投資家・株主との対話を踏まえ、中期経営計画のROE目標を7%から8%への引き上げを行うとともに、大幅な株主還元を実施する新方針を公表しました。配当に加え自己株式の取得による株主還元も積極的に活用することで、改善余地が大きいバランスシートについて財務戦略の改革を行ってまいります。

### ROE・株主資本コスト及びPBRの推移と課題認識

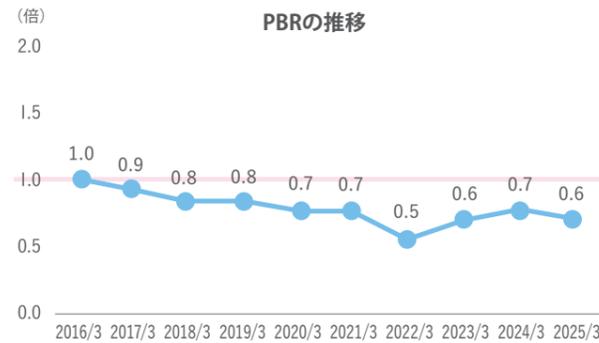
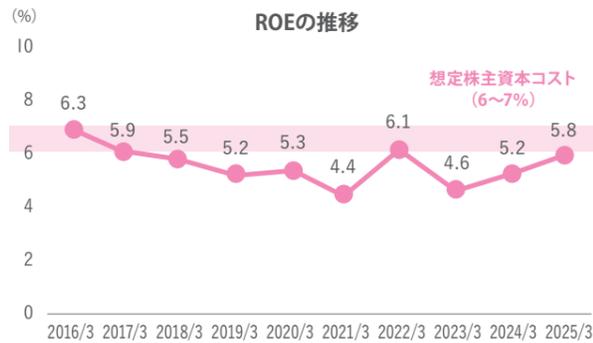
中期経営計画のKPIとして採用しているROEは、例年の水準から向上せず、株価の低迷も相まってPBRも低迷が続いており、当社としては現状を下記のように分析しています。

#### 資本収益性

- 増収傾向にある中で、利益成長の停滞と純資産の増加により、ROEは想定株主資本コストを下回る水準で推移。
- 資本収益性の向上へ向けて収益力の向上に加え、バランスシートについても見直しが必要。

#### PBRの現状

- 当社のPBRは長期にわたり1倍割れで推移。
- ROEの低迷に加え、事業環境が変化中、成長戦略についての情報開示が不足。
- 成長に向けたエクイティストーリーの公表とIR活動による市場との積極的な対話の更なる推進が必要。



上記に加え、投資家との対話に積極的に取り組む中、様々な意見をいただいております。当社は課題を下記のように認識し、中期経営計画のROE目標を引き上げるとともに新株主還元方針を策定するに至りました。

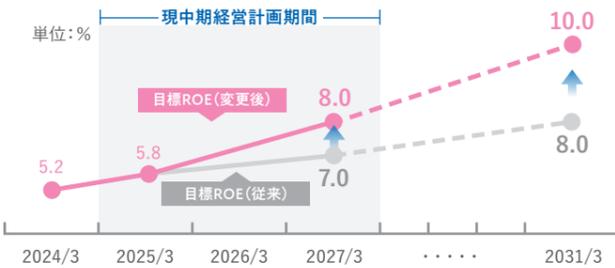
	投資家の主な指摘ポイント	課題認識
KPI	<ul style="list-style-type: none"> <li>業績目標の達成の合理性が低い</li> <li>ROEは8%が最低ライン(7%は低い)</li> </ul>	投資家の求める水準を踏まえROE目標の見直しが必要
財務戦略	<ul style="list-style-type: none"> <li>現状の財務戦略ではROE目標の達成は厳しいのではないか</li> <li>豊富なキャッシュの用途を開示すべき</li> </ul>	ROEを向上させるため、財務戦略の大幅な改革が必要

KPIの見直し	ROE目標: 2027年3月期 7% → 8%、2031年3月期 8% → 10%
資本政策の見直し	新株主還元方針の策定: 配当性向 50%、2年 総額約220億円の自己株式取得の実施

### KPIの見直し: 目標ROEの変更

持続的な企業価値の向上に向けて、投資家・株主との対話も踏まえ、2027年3月期におけるROE目標を8.0%に変更し、長期的には、ROE10.0%以上を目指します。



### 資本政策の見直し

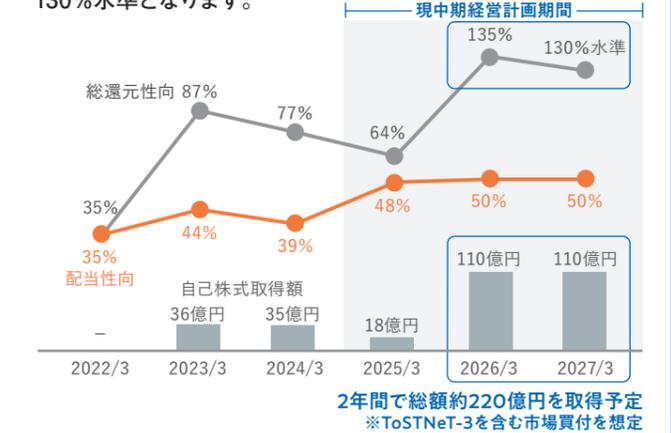
#### ROE8%の実現に向けた新株主還元方針の策定

2027年3月期のROE8%の実現に向けて、株主還元方針をより積極的な内容に改定します。

		新株主還元方針
株主還元方針	配当金	<b>配当性向50%</b> (現中計期間3年総額 約200億円) 利益成長に伴う累進配当
	自己株式取得	2026年3月期 ~2027年3月期 <b>約220億円の取得</b> (現中計期間3年総額 約240億円)
株主還元の考え方		持続可能な成長基盤の構築に向けて、成長投資や経営基盤強化等に資本を積極的に配分するとともに、財務の健全性を維持しながら、株主還元の充実を図る。 <b>現中計期間においてROE8%実現に向けて、配当に加え自己株式の取得による株主還元も積極的に活用する</b>

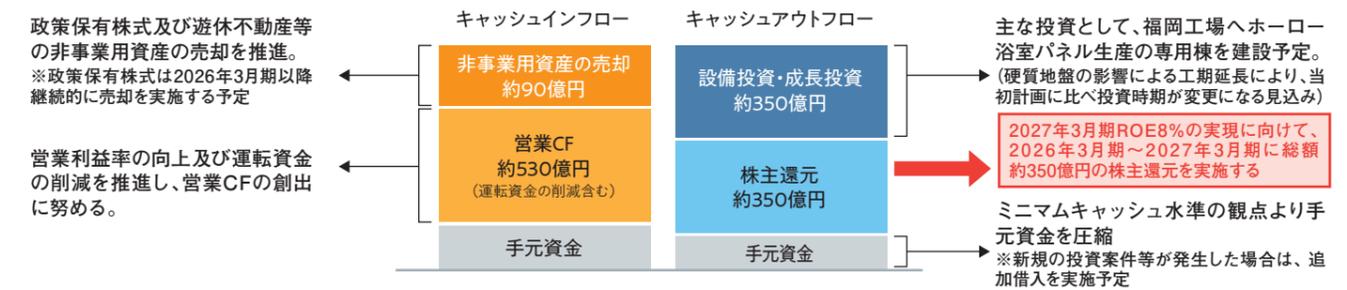
#### 株主還元詳細

2026年3月期から2027年3月期にかけて、総額約220億円の自己株式の取得と配当性向50%と併せて、2年間の総還元性向は130%水準となります。



### キャッシュアロケーション(2026年3月期~2027年3月期)

営業CF及び非事業用資産の売却によるキャッシュインを用いて、成長投資及び株主還元を実施します。



### バランスシートマネジメント

バランスシートに関する当社の現状認識を踏まえ改善に取り組み、改善により創出した資金は、成長投資や株主還元の原資として活用します。

